

優れた防災計画をたてるために必要な過去の災害を記録した文献を復刻。

日本災害資料集

水害編全7巻

吉越 昭久 編・解説

クレス出版



【福山水害誌】

『日本災害資料集 水害編』の刊行に寄せて

立命館大学文学部教授

吉越昭久

阪神・淡路大震災（1995年）と東日本大震災（2011年）は、甚大な被害を伴ったことからその後の日本における災害観や災害対応を大きく変える出来事になった。歴史的にみると、災害の発生にはある周期性があると言われている。水害に関して言えば、近年では、第二次世界大戦直後に台風によって引き起こされた水害の多発期があった。その対策として、山地部に多くの多目的ダムが建設された。その後河川の堤防工事なども進み、大規模な外水災害はあまりみられなくなったが、都市化に伴って内水災害が増加したり、ゲリラ豪雨による局地的な水害が頻発するようになった。

災害は、繰り返し発生する。将来の災害を予測し、被害を可能な限り小さくするためには、過去の歴史に学ぶことが一つの方法としてあげられる。各地域は、それぞれに過去の災害履歴を有している。そこで、まずそれを正確に調べ地域の脆弱性を知る必要がある。災害が頻発する地域では、これまでに様々な対応がされてきており、そのような中から防災や減災の知恵を学ぶことができる。とりわけ災害の中でも、過去から学ぶべきことは水害に多いと考える。これらの過程を通して、防災や減災の知恵を抽出し、それらを防災計画に導入しなければならない。しかしこれまでの防災計画には、残念ながらこのような視点が欠如していたと言わざるを得ない。

ところで、明治時代以降になると、個々の災害を記録した文献が、官公庁などから刊行されるようになった。しかし、その多くは一部の地域にしか知られておらず、現在となっては読むことさえ困難なものもある。過去の災害から防災や減災の知恵を学ぼうとする場合、これは困ったことといえる。そこで、災害のうちでも水害に限定して、大正時代末期から第二次世界大戦直後までに刊行された文献を対象に、複製が可能なものを選定し、『日本災害資料集 水害編』と銘打ったシリーズを刊行することにした。もちろん、このシリーズで主要な水害文献を網羅できた訳ではないが、これらの文献を有効に利用して、過去の災害に学び、優れた防災計画をたてていきたいものである。

なお、本シリーズは、『日本災害資料集』の水害編である。今後、地震編、火災編が刊行される予定である。

第7巻 東京都水災誌

第九章 江東三区の被害概観

第一節 足立区の概観と被害状況

足立区は旧東京市の北端に位し、東は葛飾区に、西南は荒川を以て荒川区、北区の両区に、北は埼玉県に境接している。地勢は一円平坦にして殆んど高低なく、唯荒川沿岸のみが稍々低い。水運の便宜しきを以て、工業の地帯として発展しつゝあつた。本区は昭和七年十月、旧千住町ほか二箇町、江北村ほか六箇村、即ち旧南足立郡全部を合併して形成されたものである。

本区のうち千住町の如きは、荒川及び綾瀬川に挟まれ、幾多の堤防が築造されていたが、土地低平なるため連年水害を被つていた。然しながら荒川放水路の完成に依つて、今や全く其の憂が除かれるに至つた。只本町はそれがため南北に二分せられ、南部旧東京市寄りには交通至便で、在来の大市場の存在と共に今や人口飽和に近く、之に反して北部千住は放水路に遮断されて、其の発展は非常に遅れた。

旧西新井町は徳川時代は其の御料地であつたが、明治初年小菅県に入り、後東京府の所管となり、同二十二年町村制の施行と共に、三村合して西新井村となり、近年町となつたのである。連年荒川の水害を被つたが、放水路の完成と共に漸次発展し、人口も増加するに至つた。此の地区が、利根川の決潰によつて大水害を蒙るに至つたことは、夢想だにもせざるところであつた。

今回水害のあとを見れば市街地其他の浸水地は二六町歩、田は一五五町歩余、畑は七八町歩、合計二五九町歩に及んだ。

尙本区のうち旧梅島町も亦もと徳川氏の御料地であつたが、明治二年小菅県となり、後東京府に入り、同二十二年梅田外三箇村が併合して、梅島村となつた。大震災以来移入するもの多く、且つ瓦工業地として発展し、ために昭和三年には町制が実施された。荒川放水路の完成によつて水害を免れた本町は、千住新橋の架設を見るに至り、市電は放水路の右岸に達し、都営バスは橋を越えて本町に入り、草加バスも亦之に連絡してその中央を北上して草加に至り、東武本線は梅島駅及び西新井駅を置くを以て、交通の便に恵まれている。旧江北、舎人、綾瀬、東淵江、花畑、淵江、伊興等の誌村また何れも明治二年小菅県に入り、同四年に東京府に移管され、同二十二年町村制の施行と共に、此等の地は夫々一村を形成したものであるが、農耕地で交通機関には恵まれていない。たゞ今次の水害は、足立区としては綾瀬川以東の地区のみに限られたことは、不幸中の幸であつた。

日本災害資料集 水害編全7巻

第1巻

水災と雪災

防災科学第三巻／岩波書店／昭和10年

【内容】津浪（高橋龍太郎）、波浪（鈴木雅次）、高潮（関口鯉吉）、大雨（西村傳三）、洪水（富永正義）、雪崩（黒田正夫）、水難（石樽千亦）津浪・高潮避難心得（今村明恒）、大雪（岡田武松）

水害の日本

安芸皎一著／岩波書店／昭和27年

【内容】洪水はどうして起るか、治水の歴史、国土は荒廃している、われわれはどうしたらよいか、土地はわれわれの記録である

第2巻

大正八年 福山水害誌

濱本鶴實編／福山水害誌刊行会／昭和9年

【内容】災害篇、救護篇、水防篇、折衝篇、廢衛篇、義捐篇

第3巻

昭和十年 群馬県風水害誌

群馬県学務部社会課／群馬県／昭和12年

【内容】気象、被害状況、救援救護、復旧復興計画、功労者表彰

第4巻

水害の総合的研究 石狩川上流氾濫の第1回調査報告

財団法人 農業物理研究所／柏葉書院／昭和23年

【内容】気象学的研究、山地流域における最大洪水量について、水源地帯の林相について、忠別川出水についての二三の考察、河川氾濫による浸水の研究、河川氾濫による土砂の分布について、洪水堆積土の粒径分布、倉沼川決潰箇所における水稻の被害実態調査、辺別川水稻の水害について、冠水後における水稻生育相の二三について、昭和7年の石狩川氾濫について、農作物の水害に関する文献、水害と植物の病害に関する従来知見

第5巻

北上川流域水害実態調査 ——アイオン台風による水害について——

経済安定本部資源調査会／昭和25年

【内容】災害地域の概況、アイオン台風による災害の概要、水害に於ける雨量の一見方、水理学から見た河川災害発生機構、地形上から見た洪水伝播速度、岩手県下におけるアイオン台風による洪水被害調査、アイオン台風による磐井川の水害について、河川堤防の締固の状態、河川堤防の土質力学的調査、河川状況から見た迫川の水害、迫川の水害に対する伊豆沼、長沼の遊水池としての効果、山間部用水路の豪雨による被害について、猿ヶ石川沿岸耕地の水害実態調査、洪水による地形変化、山林被害と将来の対策、早池峰山北側の平津戸方面に於ける山崩れ調査、開墾地の土壌侵蝕調査、アイオン台風と終戦後の開墾、耕地土壌の面から見た迫川、磐井川及び猿ヶ石川の水害、農作物冠水の様相の2、3の型について、アイオン台風による水害地帯農家実態調査、迫川流域における新田開発と水害の歴史、迫川伊豆沼附近の土地所有関係について

第6巻

カスリン台風の研究 利根水系に於ける災害の実相

日本学術振興会群馬県災害対策特別委員会／群馬県／昭和25年

【内容】水源（気象、地質、林野、耕地）、河川、農作物、経済

第7巻

昭和二十二年 東京都水災誌

東京都／昭和26年

【内容】序説（東京都の地勢及び気象、水災と治水の沿革）、出水経過及び被害状況（カスリーン台風の概況、出水経過、被害状況、土木関係・産業関係・交通通信関係・水道関係・公共施設の被害、江東三区の被害概観）、水災日誌、応急救護（都の応急救護概要、東京都の水害対策、各方面の応急対策と慰問）、復旧対策（決潰箇所への復旧と治水対策、東京都の復旧対策、政府の復旧復興計画、今次水害に対する諸家の意見）

日本災害資料集 水害編全7巻

吉越 昭久 編・解説

第1巻	水災と雪災、水害の日本	定価14,000円(税別)	ISBN978-4-87733-683-7
第2巻	大正八年 福山水害誌	定価 8,000円(税別)	ISBN978-4-87733-684-4
第3巻	昭和十年 群馬県風水害誌	定価15,000円(税別)	ISBN978-4-87733-685-1
第4巻	水害の総合的研究	定価11,000円(税別)	ISBN978-4-87733-686-8
第5巻	北上川流域水害実態調査	定価14,000円(税別)	ISBN978-4-87733-687-5
第6巻	カスリン台風の研究	定価19,000円(税別)	ISBN978-4-87733-688-2
第7巻	昭和二十二年 東京都水災誌	定価14,000円(税別)	ISBN978-4-87733-689-9

A 5判(第1巻～第3巻)、B 5判(第4巻～第7巻)／上製クロス装 揃定価 95,000円(税別)
平成24年7月末日刊行 ISBN978-4-87733-690-5(セット)

クレス出版好評既刊書

翻刻歴史史料叢書 全6巻

気象研究所 監修 荒井秀俊 編

1. 日本高潮史料	定価 4,000円(税別)	ISBN4-87733-153-0
2. 異国漂流記集	定価 4,200円(税別)	ISBN4-87733-154-9
3. 日本漂流漂着史料	定価10,200円(税別)	ISBN4-87733-155-7
4. 近世気象災害志	定価 3,600円(税別)	ISBN4-87733-156-5
5. 日本早魃霖雨史料	定価 6,200円(税別)	ISBN4-87733-157-3
6. 異国漂流記続集	定価 4,800円(税別)	ISBN4-87733-158-1

揃定価33,000円(税別) ISBN4-87733-152-2(セット)

気象要覧 全13巻

中央气象台 編纂

第1回配本	明治33年～明治44年	全5巻	揃定価88,000円(税別)	ISBN4-87733-190-5
第2回配本	明治45年～大正8年	全4巻	揃定価74,000円(税別)	ISBN4-87733-191-3
第3回配本	大正9年～大正15年	全4巻	揃定価78,000円(税別)	ISBN4-87733-192-1

揃定価240,000円(税別) ISBN4-87733-189-1(セット)

日本の地理学文献選集 全Ⅲ期26巻

岡田 俊裕 編・解説

(Ⅰ) 近代地理学の成立前夜	全9巻	揃定価90,000円(税別)	ISBN978-4-87733-373-7(セット)
(Ⅱ) 近代地理学の形成	全8巻	揃定価94,000円(税別)	ISBN978-4-87733-374-4(セット)
(Ⅲ) 近代地理学の展開	全9巻	揃定価95,000円(税別)	ISBN978-4-87733-419-2(セット)